

題字  
宮城県知事 山本 壮一郎

発行所  
仙台市上杉1丁目2番16号  
法人 宮城県畜産会  
電話 (61-2111)  
編集発行人 大石 武一  
定価 1部20円  
印刷所 KK東北プリント



躍進する宮城県畜産を担う飼料供給拠点

もくじ

畜産試験場のあらし 1  
 最近の飼料情勢 4  
 配合飼料高騰に対する緊急融資対策 7  
 昭和48年度家畜共済事業のあらし 8  
 第17回宮城県乳質改善共励会5月から実施 9  
 昭和47年家畜伝染病発生状況 9  
 県畜産会定時総会開催される 9  
 斎藤孝夫氏学位授与祝賀会盛大に開かれる 9  
 昭和48年度催しもの案内 11  
 和牛登録料金の訂正 11  
 人の動き 12

# 畜産試験場のあらまし

春日 博

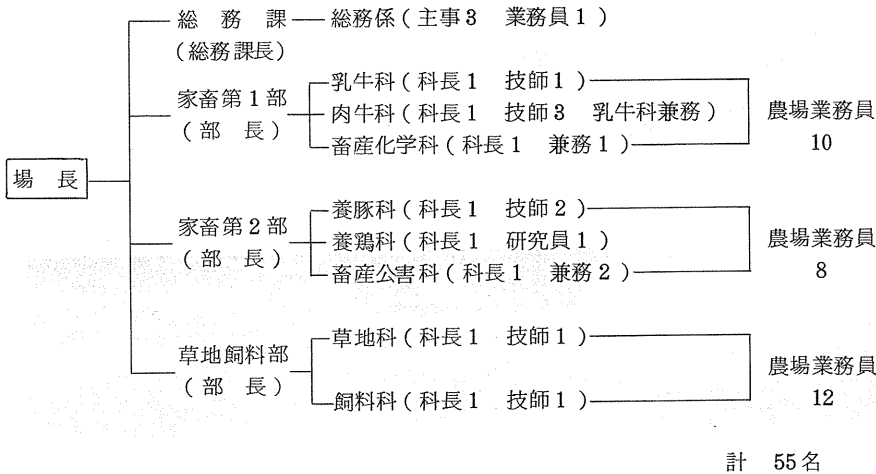
## おいたち

当場の発祥は、明治29年に創設された、いわゆる国営の「宮城種馬所」で、馬の改良をはかるための施設として県に移管（昭和24年6月）されるまでの約50有余年にわたって、専ら農馬（軍馬）の改良基地として、戦前、戦中にかけて80頭余の種牡馬が繋養されていた。

往時、本県の馬産は畜産の主体をなし、県内約10万戸の農家に約60千頭の馬が飼養されていたことから、畜産即馬産であったことがうなづけよう。

昭和20年8月15日、国運を賭した大東亜戦争も終りをづけ、ここで馬のもつ使命も終り、戦後農林省所管の、「宮城種畜牧場」に変わったが、昭和24年に国から県が、

## 機構と職員



用地および施設等を譲受し、当時刈田郡白石町（現白石市）所在の県種畜場と、加美郡色麻村所在の県種畜場とを廃止して現在地に移転、「宮城県種畜場」として発足、以来24カ年を経過して、去る4月1日付で行政組織規則の一部が改正され、畜産に関する試験研究および奨励指導を行なう施設として「宮城県畜産試験場」に改組され、新しい機構のもとにスタートすることになった。

従来、本県の畜産関係の試験研究体制は、県種畜場と県立農業試験場畜産部においてそれぞれ行なわれていたが、今回一元的な試験研究体制に整備されたものである。

なお、新しく発足した畜産試験場の機構と職員は次のとおりである。

また、当場の用地は総面積120ヘクタールで、うち牧草地71ヘクタール、飼料畑1ヘクタール、付帯樹林地、35.9ヘクタール、建物敷地12.1ヘクタールとなっている。

畜産試験場のあゆみも、本県畜産の変せんとともにあゆんでいる。即ち馬畜から乳牛、肉牛、あるいは肉豚養けいえと、しかも経営内容においても副業経営から自立経営へ、さらに企業 至商業的畜産経営へと展開されている。

これらに対応して、畜産に関する試験研究の分野も家畜個体を対象とした、いわゆる個別的技術から大規模経営に関連した群飼省力飼養技術、また大規模草地利用を

主体とした放牧、採草、経営技術あるいは家畜糞尿の効率的な処理技術の開発等新しい畜産に対応するための試験研究がのぞまれている。

今日の活力！ 明日の健康！

# 全酪牛乳



全国酪農業協同組合連合会(全酪連)

## パスチャー・ポストD型 脱柵の心配のない隔障物

### 北原電牧(株)代理店

仙台市卸町三丁目1番地21号



### 吉田産業仙台支店

TEL (0222) (92) 4131

## 業務のあらまし

県畜産試験場の主な業務は、畜産に関する試験研究のほか、家畜の改良増殖（種畜の生産配布、家畜人工授精用精液の生産配布）、家畜の能力向上対策の一環として行なわれている家畜能力検定事業（豚の産肉、若おす豚検定、にわとりの経済、後代検定事業等）および畜産技術者の養成等である。

以下この機会に、主な業務の内容について紹介をかねて述べてみたい。

## 〔1〕 家畜の改良増殖

## (1) 優良種畜等の生産配布

会場における乳用牛は、基礎牛として資質、能力、体型および乳房等の改良向上をはかるために成めす牛約40頭が繋養され、年間種めす子牛約20頭が生産育成され、県内の中核酪農家に基礎種畜として配布される。

種豚については、ランドレース種、♂3頭、♀29頭、ハンブシャー種、♂5頭、♀5頭、大ヨークシャー種、♂1頭、♀2頭が飼養され、純粋繁殖をおこない、優良種豚の改良育成をおこなって、主として県内指定種豚場を対象に原種豚として、年間約250頭が配布される。

なお、昭和47年度において、米国から、ハンブシャー種、♂4頭、♀2頭計6頭の種豚が輸入（購買）された。

## (2) 家畜（牛、豚）人工授精用精液の生産配布

乳牛の人工授精用精液の生産配布については、昭和46年から家畜改良事業団営（岩手県所在、盛岡種雄牛センター）に切替えられたが、会場繋養中の輸入種雄牛2頭（モニター、サムソン）を主軸に、年間約18,000本（1cc入りストロー、凍結精液）の生産配布をはかる。

肉用牛については、黒毛和種2頭、褐毛和種2頭の種雄牛から年間約17,000本を生産配布する。

豚の人工授精用精液については、本年から行なわれる豚人工授精普及推進事業との関連で、年間500～800本（60ccチューブ入り）生産配布する計画である。

なお、家畜改良増殖のための事業として、家畜能力検定事業が行なわれているが、この事業の内容については紙巾の都合で省略する。

## 〔2〕 草地管理と粗飼料の生産

会場の飼料栽培圃場面積は試験圃場を含め約72ヘクタールで、牧草を主体とした作付けによって栽培管理作業

の機械化、省力化をはかり場繋養家畜に給与する粗飼料の生産確保に努めている。

なお、草地は乾草およびグラスサイレージ等の生産調製をする採草地と、家畜を放牧する草地（約28ヘクタール）に区分利用され、年間に乾草約400トン、サイレージ約300トン調製される。

## 主な試験研究

## (1) 草地を主体とする搾乳牛の放牧技術に関する試験

乳牛の多頭飼養に伴い、省力化の一助として搾乳牛の人工草地放牧方式による技術体系の確立に資するため、放牧と舎飼いの産乳性（乳質も含め）の検討を行なっている。

昭和47年度の2週間（放牧と舎飼い）間隔5反復での試験結果では、放牧と舎飼いによる産乳量および乳質等に有意差は認められなかったが、本年度においては4週間5反復での結果を検討している。

## (2) 草地を主体とする肉牛生産技術に関する試験

放牧適正の高い肉用子牛の保育育成方法を究明するため、生時～6カ月令までの屋外と屋内保育育成した子牛について、生後7カ月令以降草地放牧育成した場合の発育成績について検討を行なうものである。

## (3) 放牧を加味した乳用おす子牛の育成肥育試験

乳用おす子牛（生後6～7カ月令以降）の草地放牧育成については、1日あたり増体量（D・G）大約0.8キログラム程度可能であることが実証されたが、さらに舎飼いと草地放牧育成が肥育成績に及ぼす影響について検討を行なうものである。

## (4) 豚人工授精実用化に関する試験

種雄豚の高度利用をはかり、肉豚改良を促進するため、人工授精の実用化試験を46年度から実施しているが、低温保存（5℃）では約7日、常温保存（15℃）では約4日間授精（利用）可能であることが確認されたので、さらに有効期間の延長をはかるため、保存過程における精液内細菌の増殖状況等について調査検討を行なう。

## (5) 寒冷地におけるブロイラーの飼養法改善に関する

## 試験

ブロイラー飼育について、飼養環境特に換気方法の差が、発育、飼料要求率等に及ぼす影響について調査検討

## 畜産の薬品・器機

何でも揃ふ専門店

仙台市上杉三丁目3-8  
東北獣医薬品株式会社  
TEL (25) 7338

支店 登米郡迫町佐沼下田中  
TEL 迫(2)2278

支店 山形市小白川町4丁目  
TEL 山形(3)9909

酪農経営に画期的な新鋭機登場

**ノボノエーサー**  
稲わら飼料調製機 ◀asser▶

株式 五十嵐商会  
会社

仙台市中央三丁目5番14号

する。

(6) 牧草の肥培管理に関する試験

家畜ふん尿処理対策の一環として、草地に基肥および追肥として、厩肥、尿、生鶏ふん等を大量投入（施肥）した場合の肥効と草地に及ぼす影響等について調査を行っている。

(i) 草地における厩肥の肥効と草地に対する影響

草地に対する厩肥の施用が、牧草の生育および生産に及ぼす影響を調査して、その肥効と効率的な施用等について昭和45年度から調査検討をしている。

これまでの成績では、厩肥を草地10アールあたり6,000～9,000キログラム施用区（金肥無施用）で年間生草量3,200～4,000キログラム生産可能である。

なお、厩肥を草地へ大量施肥した場合の硝酸態窒素の含量については、厩肥施用量の増加に比例して、僅かではあるが増加がみとめられたが、量的に問題はないものの、厩肥継続施用による土壌への蓄積および牧草への移行等今後も継続して検討する予定である。

(ii) 牧草栽培における牛尿の施用に関する試験

牧草地に追肥として牛尿を施用する場合、その施用量が牧草の生育および生産に及ぼす影響について調査検討しているもので、年間草地10アールあたり牛尿の施用量6,000～24,000キログラム、リン酸10キログラム併用施肥を行なった。

その結果では、年間10アールあたり5,000～7,500キログラム生産を得たが、牛尿を大量追肥として、さらに検討する計画である。

(iii) 牧草栽培における生鶏ふんの施用に関する試験

草地を造成し、維持管理をする場合に、生鶏ふんを基肥および追肥として施用し、その施用量と施用方法が牧草の発芽、生育に及ぼす影響等について調査しているものである。

(7) 放牧用草地の造成および利用維持管理に関する試験

県内における放牧利用草地の効率的利用および維持年限の延長をねらいとして、不耕起、放牧条件での草種の組合せについて検討している。

(8) 牧草類品種の奨励地域および利用方式決定栽培調査

国の委託事業として、地域の自然的、経営的条件に適応した牧草の品種および最も有効な牧草の利用方式を定

めることにより、牧草生産の増大をはかり、粗飼料自給率の向上に資するために、この調査が行なわれている。

(9) 草地に対する施肥技術確立に関する試験

牧草地の不耕起造成における珪カル、炭カル、苦土石灰の施用効果について検討されている。

（宮城県畜産試験場長）

# 最近の飼料情勢

及川 賢司


飼料原料の情勢については、昨年来世界の食糧事情を背景に激しい動きをくりかえしながら今日に至っております。

配合飼料価格は、昨年末から本年3月にかけて2度にわたる大巾な値上げが実施され畜産経営に大きな影響を与えましたが、その要因は、周知の通り世界的な天候異変による食糧の大減産から、小麦を中心とした穀物の需要が大豊作に恵まれた米国に集中したため、食糧需給バランスは崩れ穀物相場が暴騰を続け、輸入原料も高騰し、再度の値上げとなったものです。

値上後の3月以降も情勢は好転せず悪化を辿り、飼料業界は4月に3度目の大巾値上げを予定していましたが、米国のドル切下げ・円の変動相場制への移行により、円高基調となり為替差益が出たことと、値上げ抑制のため緊急特別措置として議員立法による古々米・大小麦・ふすま等の飼料用穀物を4月23日から3ヶ月間、食糧管理法にもとづく政府払下価格の半額で放出されることにより、4月値上げは回避されたのです。

この特別措置により放出された原料で製造された配合飼料は、政府の施策を明確にするため、紙袋又はバラ保証票にNEPマークが表示されています。また政府は、飼料放出とあわせて、配合飼料の高騰が畜産物の生産・消費に及ぼす影響が大きいため、緊急の措置として、農協等の金融機関が畜産農家に低利の飼料購入資金（一戸当たり3万円から300万円を限度）を融資する事業に対して、畜産振興事業団が金利助成し、畜産経営の安定と畜産物

総合養豚事業にとりくむ  
サイボクグループ

 **(株)サイボク**  
**東北牧場**

取締役社長 笹崎龍雄  
取締役場長 大角宏一

宮城県栗原郡高清水町影の沢 TEL(高清水)172



## 純生卵

NEP

「生産から販売まで」

(株)フラワー食品仙台営業所

TEL(0222)(92)6371

中新田GPセンター

TEL(022296)(3)3714

価格の異常変動を緩和するため、畜産経営特別資金緊急融通助成事業を実施しています。

このように、政府の緊急対策により4月値上げは一応回避されたものの、今後の情勢いかんによっては更に価格変動の可能性があり、世界的な異常気象の影響が大きく作用するものと思われまます。

### 世界的な異常気象の発生

昨年極地付近の大寒気団の発達により、ソビエト圏は異常低温と干ばつが発生し、農作物は大きな被害をうけ、穀物が3,000万トン近い減収となり、米国等から小麦を中心とした穀物の大量輸入の事態を惹起し、一方では、南半球に於いて、インド洋高気圧が異常発達し、インド・東南アジア・オーストラリア・南アフリカ等は猛暑と干ばつに襲われ、農作物の収穫は半減ないしは皆無に近いものとなり、これらの国々では食糧不足は深刻化し、西アフリカでは雨期を控え1,000万人が飢えに苦しんでおり、6月中旬までに大量の食糧を供給しなければ餓死の危機に直面していると云われています。

また、南米太平洋沿岸では、海流が極端な異常低温をしめし、ペルー沖のアンチョビー(片口いわし)魚が絶滅し、ペルー政府は禁漁令を発し資源保護をはかったのですが、今年に入って3月解禁したものの漁獲は振るわず、魚粉生産にかなり影響を及ぼすものと見られています。

このように、世界各地で異常気象が記録されていますが、それは長期的なものと思われ、今年も各地に大きな被害をもたらしています。

地球は70年代に入って長期低温期となり、平均気温は年1度位ずつ下がり、近い将来は1年に3度位下がることも予測され、一部科学者の間では氷河時代(第四小氷期)の到来をつけている人もいます。

したがって、この過渡期において異常気象が起り易い状態となり、少なくとも70年代はこの傾向が続くものと見られています。

現に、本年になってソビエトは暖冬異変、降雪不足により秋播小麦に大きな被害が出ており、既に1,500万トンの減産が見込まれており、また、アメリカ中南部では昨年来から長雨が続き200年来最悪の異常天候となり、ミシシッピ-河流域で大洪水に見舞われています。

このため、起耕作業が出来ずトウモロコシ・マイロ・大豆等の播種が3週間の遅れを見せ30~50%の播種状況となっており、収穫にどのように影響するか注目されています。異常気象は更に5月に入るとインド並びにバングラデッシュに大雨を降らせ大洪水となり、バングラデッシュでは国土の3分の1が水に浸っていると云われ、米作は半減、インドの落花生にもかなりの影響が出るものと思われまます。

このように、世界的な異常気象は今後も続発すると見られ、農業生産に重大な影響を与えることも考えられるので、今後の成行きに注目しなければなりません。

### 世界人口の急増

71年の国連人口統計年鑑によると、世界の人口は前年より7,400万人多い37億600万人と報告され、2%の増加率となっており、このまま増加が続くとすれば23年後には現在の2倍となり70億台の人口になると予測されています。


しかし、食糧需給を見れば工業生産の発展を主体とした社会構造の中で農業生産は衰退を続け、技術開発を見込んで年率2.8%の伸びにとどまるのに対し、人口増加・所得水準の向上・共産圏諸国の畜産振興に伴い、食糧需要は年率3.2%増となるため、近い将来食糧需給のバランスは崩れ需要超過となり深刻な食糧難時代に到達することが予想されています。したがって、人類と共通する穀類を消費する家畜にとっても重大な危機に直面していると云っても過言ではないわけです。

### 変動を続ける原料情勢

上記のような世界の食糧事情を背景にして、原料情勢は変動を繰り返しており、今後の価格推移を予測することは甚だ困難になってきています。ことに政府の緊急特別措置による放出飼料がなくなる7月以降は、高い輸入原料に切替えざるを得ないし、海外市況が再び騰勢を強めてきていることから、配合飼料価格は今後更に上向いて行く可能性が出て来ております。

### (1) 米国穀物生産計画

1973年(48年)の米国穀物作付計画が米国農務省から発表されましたが、生産調整から一転して増産体制に切替え、トウモロコシは作付面積で前年比112.4%、生産量は108%と昨年の大豊作を上廻る史上最高の計画であ



いつもフレッシュ!!




# 明治牛乳

明治乳業

飼い上手 育て上手は……  
みのたに……で

動物薬品・獣医器具総代理店

## K. K 美濃谷

本 店	山形市蔵王成次	TEL 山形 (0236) (88) 3121
仙台営業所	仙台市山田字羽黒堂5-216	TEL 仙台 (0222) (45) 4306
鶴岡店	鶴岡市本町一丁目8-3	TEL 鶴岡 (0235) (22) 1428

り、マイロも作付面積106.2%、生産見通しは昨年の大豊作並となっています。また、大豆はペルーの魚粉生産の低迷から大巾な増産計画を樹立し、面積で114.5%、生産量で116.9%と蛋白源確保に主力をおいています。

一方、昨年ソ連、中国、その他の国から買付けが殺した小麦については、作付面積122.2%、生産量112.1%と大豆同様大巾増反に踏切っており、世界の食糧基地としての性格を強めております。

(2) トウモロコシ

米国では養豚生産が活発で飼養頭数が前年比110%と云われ、当然トウモロコシの需要が増加し、国内消費は前年比108.4%となり、輸出も好調で、131%となったため、9月の期末在庫見通しは2,143万t、前年同期の78%程度と予測されており、予想以上の在庫減少と、ソ連が追加買付の動きがあること、養豚生産意欲が旺盛であること、世界的に天候が不順で作況に不安があること等から5月に入り南米の豊作により軟化した市況が再び堅調となり、更に長雨による播種の遅れが減収につながるとして市況は反発に転じており、今後の天候によってはかなりの値動きがあるものと思われます。一方、南アフリカは干ばつのため前年比54%の455万トンと大減収であったので輸出余力はなく輸出禁止の措置がとられていす。

(3) マイロ

米国は73年作付計画は106.4%と増反していますが、9月末在庫予想は130万トン程度となり、前年同期35.9%に急激する見込であります。それは輸出が368万トン(前年比117.9%)とかなりの伸びを示し、国内需要も旺盛で195万トン(同109.7%)で、合計564万トンとなったため、在庫量の減少から一時市況も波乱含みとなったのですが、アルゼンチンがマイロの大豊作を云えたことから市況は一時軟化の傾向を示していました。しかし、5月に入って播種の遅れや大豆の高騰にスライドして高値に反転する可能性が強まって来ています。

(4) 海上運賃

昨年夏、低相場に泣いた海運業界も、ソ連の大量穀物買付を契機として強気に転じ、ジリジリと相場を上げ、夏4ドル前後(ガルフー日本)から8月5ドルラインを越え、9月、10月と高騰を続け、12月に10ドルの大台に

乗せ、その後やや反落し、一応の着落を見せていました。しかし、最近我国の鉄鋼の好況を反映し急上昇を続け、4月12~14ドル、5月14~15ドル50セントと高水準の成約がされ、今後のこの騰勢は続くものと思われます。

(5) 魚粉

昨年、海流異変(異常低温)のため、ペルーのアンチョビー漁の不漁から政府は漁獲を禁じたため、世界の蛋白源原料の需給に大きな狂いを与え、大豆高騰の原因となったのですが、本年3月に解禁したものの依然として漁獲は思わしくなく、4月に入り激減したため、ペルー政府は5月7日アンチョビー産業をすべて国有化し「ペスカ・ペルー」を設立し、今後の輸出契約、魚粉価格の管理をすることになったのです。

更に、現在のアンチョビー漁は体型が6cm位の小型のもので、平年の12~14cmに比べかなり成育が遅れているため、ペルー政府は資源保護の立場から再び禁漁に入る可能性も出て来ているので、蛋白源原料の逼迫は更に深刻の度を加えてきております。

一方、国内産魚粉は助宗タラ漁が好調で前年比120~130%となっているが、練製品等の加工需要が旺盛で飼料原料向けはさほど増えておらず9月以降の鯖漁いかんによっては、魚粉の不足が尚一層きびしくなる恐れがあります。したがって、相場も海外市況につられ、高値水準で推移しています。

(6) 大豆粕

大豆並びに大豆粕のシカゴ定期は3月以降乱高下していましたが、「ペスカ・ペルー」の設立によって一気に高騰し、僅か3日の間に3ドル50セントの値上し、10ドル75セントと記録的な大暴騰となり、今後の成行が注目されています。その背景としては、アンチョビー漁の不漁、ソ連の追加買付気念、ヨーロッパの穀物不足、中国の需要増加、インドの落花生の不作等が影響しており、新穀の出廻り10月までどの程度の在庫が保てるかが問題であり、4月1日現在全米在庫は前年同期8%減の5億600万ブッシュェルと少なく、輸出も活発で8月末には在庫が底払することも予測されています。

我国では4~6月に12~14万トンを輸入したため、国内市況は軟化の傾向を見せていますが、シカゴ定期の高騰に刺激され高値に推移して行く可能性も出て来ており、

こくておいしい大型びん……

森永  
ハイクラウン牛乳

宮酪乳業株式会社

仙台市一番町4番31号 TEL(代) 23-9101

牧場用柵には  
強く美しくスマートな

東芝製鋼牧柵を!

製造元 東伸製鋼(株)仙台営業所  
仙台市一番町二丁目7-5 TEL277053

販売元 塚本商事機械(株)東北出張所  
仙台市大町三丁目165 TEL214581

代理店 本山振興株式会社  
仙台市昭和町6番10号 TEL346221

端境期には高い大豆を輸入せざるを得ない事態となっています。

以上のように、原料毎の動向を分析して見ると先行き見通しは不安材料が山積みし、情勢は非常に緊迫してお

り、これが配合飼料へ波及するのは時間の問題であり、業界は再値上必至との見方を強めています。加えて、政府の緊急特別措置による原料払下げが7月下旬に打切られるため、その時期は早められるものと思われます。再三の値上げが実施されれば、畜産経営は更に窮地に追い込まれることになり、畜産物価格の高騰に結び付くことを憂慮し、系統農協は全国農協中央会を中心として農林省、政府に対し緊急特別措置の継続について強力な要請活動を続けており、この活動の成果を期待するものであります。

( 県経済連飼料課 )

( 米国税務省発表 )

	1973年(48年)		1972年(47年)		前年比	1973年(48年)		1972年(47年)		前年比
	計	産	計	産		計	産	計	産	
とうもろこし	75,000	75,000	66,753	66,753	112.4%	15,240	15,240	14,100	14,100	108.1%
大豆	53,801	53,801	47,003	47,003	114.5%	4,080	4,080	3,489	3,489	116.9%
マイロ	18,568	18,568	17,455	17,455	106.4%	2,110	2,110	2,087	2,087	101.1%
小麦	12,339	12,339	10,098	10,098	122.2%	4,711	4,711	4,201	4,201	112.1%
エンズ	20,474	20,474	20,296	20,296	100.9%	1,043	1,043	868	868	120.1%
人	11,041	11,041	10,639	10,639	103.8%	998	998	923	923	108.1%

## 配合飼料高騰に 対する緊急融資対策

県畜産課

配合飼料購入の方に年4分以内の融資制度(3万円から300万円まで)!!

### 1. 事業の名称

畜産経営特別資金緊急融通助成事業

### 2. 趣旨

配合飼料価格の高騰が畜産物の生産、価格、消費、に及ぼす影響の大きいことにかんがみ、緊急の措置として、農業協同組合等の融資機関が家畜の飼養者に低利(4分以内)の資金を融通する事業に対し、畜産振興事業団が助成することにより、畜産経営の安定と畜産物価格の異常変動の緩和に資することとする。

### 3. 融資機関

農業協同組合等 徳陽相互銀行  
七十七銀行 振興相互銀行

### 4. 貸付および利率等

- 1) 昭和48年3月～6月までの間に購入した配合飼料費の一部に相当する額。
- 2) 1借入者あたり3万円から300万円の範囲とする。  
貸付基準額×頭羽数=300万円以上300万円以内。
- 3) 利率、償還期限等

利率は年4分以内で、償還期限は2ケ年(据置期間6ヶ月)ただし据置期間終了後から貸付実行の日以降1年までの間に元金の $\frac{1}{2}$ 以上償還するものとする。

### 5. 申込方法

借入申込書に家畜頭羽数証明書(これは各市町村長の証明書)を添付し、農業協同組合、七十七銀行、徳陽相互銀行、振興相互銀行いずれかの窓口で6月30日まで受付けておりますが早めに申し込み願います。

### 6. 単位頭羽数当りの貸付限度額

畜種別	単位	貸付基準額
採卵鶏	100羽	7,700円
育すう	100羽	4,600円
ブロイラー	100羽	6,800円
豚	1頭	1,000円
乳用牛	1頭	2,700円
肉用牛	1頭	2,800円

(例)

乳用牛10頭 飼養の場合

採卵鶏100羽

乳用牛10頭×2,700円=27,000円

採卵鶏100羽×77円=7,700円

計27,000円+7,700円=34,700円

従って34,700円を貸り受ける資格を有する訳です。

### 7. 貸り受けた金額の用途について

昭和48年3月以降の飼料、家畜、ひな、または機械器具の購入等、畜産経営に関する経費の支出のため融

## 畜産公害を追放する

家畜糞尿処理工事

さく井工事

ポンプ工事

水処理工事

設計・施工

株式会社 北辰技術

仙台市鉄砲町18番地  
電話 (0222) (93)2461

フランス生れのソフトヨーグルト!

# 雪印ヨーグル

雪印生乳

雪印乳業株式会社

東北事業部 仙台支店  
仙台工場

資機関に対し負債のある場合は、その負債の消滅に充当することができる。

ただし、借入者はこれらの経費を支出したことを証する書面を整理保管しておくこと。

※なお、詳細については、もよりの家畜保健衛生所、農林事務所等にお問い合わせ願います。

# 昭和48年度家畜共済事業のあらまし

## 宮城県農業共済連

本県の家畜共済事業については、ここ数年来家畜の多頭飼育化に伴う飼養管理の失宜、その他特に肥育事業に関連した疾病が多発し、このため支払共済金は年々増高し保険収支は悪化の傾向にあります。

本会はこのような現況に対処し、家畜の全頭加入並びに損害防止事業を重点に家畜共済制度を推進し、家畜保険収支の改善を図ることにしておりますので、その主な内容についてご紹介します。

### 1. 家畜加入の推進

1. 農林省指示による本年度の目標頭数は次表のとおりであります。本会では特に加入率の悪い乳牛と、種豚を重点に加入を推進し目標頭数を確保する計画です。

表1

家畜加入推進目標頭数(農林省指示)

	昭和48年度 農林省指示頭数	前年度加入実績	加入割合
乳牛	27,600	22,481	81.5%
肉用牛	44,100	43,391	98.4%
種豚	3,300	183	5.5%
計	75,000	66,055	88.1%

- (1) 乳牛の加入推進については、多頭飼育化傾向とともに農家負担掛金が多額となり、加入の阻害要因にもなっているため、農林省の承認を受けた共済組合等では、一定条件のもとに実施されることになった掛金の分割納入制(2回)を活用し加入推進を図ることとしている。
- (2) 共済加入家畜の識別を明確にし、共済事業の適正な運営を図るため共済加入乳牛全頭に、個体識別表示板(予算250万円)を無償で交付することにしたので、この表示板を有効に活用されることを希望します。(表示板には名号、生年月、種付月日、分娩予定日等を記入)
- (3) 種豚の共済制度については未だ内容的に主旨の徹底がなされていない向きもあるので、このPRに努め飼養頭数の多い組合を選定し加入の推進を図る。
- (4) 事故家畜の完全補償をめざし、適正評価による高額加入を推進することとし、1頭当たり平均加入金額は10万円を目標に補償の充実を図る。

### 2. 共済掛金国庫負担限度金額の改善

家畜共済の加入は、法的に義務加入となっておりますので、共済加入に際しては掛金の国庫負担がなされております。国では本年度より多額飼育者の高額加入に際して、無理なく全額加入できるよう従来の国庫負担限度共済金額の区分を廃止し、次表2のとおり改善されることになりました。

表2

	国庫負担限度 共済金額	備 考
乳牛	117,000	○国庫負担限度共済金額とは、掛金を国が負担する際の最高限度です。 ○国が負担する掛金はこの加入金額により計算された2分の1~3分の1です。
肉用牛	106,000	
一般馬	183,000	
種豚	32,000	

### 3. 損害防止事業の強化

共済加入家畜の事故は年々増高しており、畜産農家の被むる損害額は増加する一方であります。このためこれら事故多発実態に対処し、連合会家畜診療所が中心となり、指定獣医師の協力のもとに積極的な損害防止事業を次のとおり実施することにしております。

#### (1) 特定多発疾病の予防

事業費1,250万円で、乳房炎、ケトン症、並びに繁殖障害の検査及び飼養管理の改善指導を実施する他金属異物性疾患による検査と除去、肝蛭症の検査駆虫を行なうとともに今年度から新たに肥育牛に多発する尿結石症の検査も実施することとしている。

#### (2) 家畜防疫車による畜舎の消毒

衛生対策としては、昨年連合会の全家畜診療所(9カ所)に家畜防疫車を設置し、関係団体等の協力により計画的な畜舎の消毒を実施したところ、大変好評でしたので今年も引き続き広範囲に実施する計画です。

また今年度は、県内有畜農家全部を対象に畜舎の消

## 畜産施設設計コンサルタント

〔KK〕山本設計事務所

仙台市柏木3丁目2の28  
TEL (0222) 33-6028



毒を実施する計画であります。このためには現有家畜防疫車のみでは需要に応じきれないため、新たに20台(1,400万円)を設置することにしており、これにより防疫体制を強化し、乳質改善は勿論のこと乳房炎、感冒、肺炎等近年多発する傾向にあるこれら疾病を予防する計画であります。



## “県内酪農家総参加”

第17回宮城県乳質改善

共励会5月から実施

生乳の飲用化促進と今後の広域流通に対処するとともに良質生乳の生産を確保し、「宮城のフレッシュ牛乳」の名声を高めるため酪農家総参加による乳質改善共励会を実施し健全な酪農の進展に資する事を目的として、5月から9月までの5ヶ月間宮城県、県生乳販連、県生乳検査協会の共催のもとに実施しております。これは第1部、第2部に分け、第1部では県内CS、工場を参加単位とし、ブリード法(細菌)TTC法(抗生物質)施設の立入検査(食品衛生法)を審査項目とし、第2部においては県内集乳路線(210路線)を構成グループ参加単位として、ブリード法、TTC法、乳温を審査項目とし県内酪農家11,200戸総参加により宮城県乳質改善共励会を実施しているものであります。昨年度の共励会においての細菌検査成績は400万未満が約65%となっております。これは各生産者の乳質改善に対する認識の昂揚、自主的な冷却施設の設置、あるいは洗浄殺菌の徹底をはかり乳質改善の基本である、“きれいにしぼってすばやく冷やす”を合言葉に共励会への総参加の態勢を整えたことにあります。本年度は細菌数400万以上の生乳の撲滅をはかり、細菌数100万未満を目標とし“宮城のフレッシュ牛乳”の確立をめざして“宮城の米”同様“宮城の牛乳”を県外(大消費地)へ、飲用向販売量を増加し県内酪農の安定かつ発展を期したいものであります。

## 昭和47年家畜伝染病 発生状況

宮城県畜産課

本県の家畜防疫事業のうち発生予防(主として豚コレラ、ニューカッスル病、マレック病)については、家畜畜産物衛生指導協会の積極的な事業の推進により予防接種は勿論のこと飼養者に対し飼養管理衛生など家畜衛生思想の普及等を適切に指導を願った結果、豚コレラ、ニューカッスル病の発生は皆無であった。

なお、全国の発生状況は下記のとおりであるが畜産経営の拡大による頭羽数の増加、流通の広域化により伝染病の発生も常に危険があるので、これを未然に防止するには家畜飼養者は、異常な家畜が発見された場合は、早急に家畜保健衛生所あるいは、開業獣医師等に届出し適切な処置を行ないまん延を防止し、健全なる畜産経営がなされるようご協力願います。(表は10ページ)

## 社団法人宮城県畜産会

### 定時総会開催される

宮城県畜産会(会長大石武一)では5月16日、農協会館において第18回定時総会を開き、昭和46年度事業報告並びに決算、48年度事業計画並びに収支予算等について協議した。

総会には、中央、地方会員代表並びに来賓等約50余名が出席協議の結果原案通り可決された。

48年度事業としては、前年通り畜産コンサルタント事業を主体とし、調査、研修、講習会等を附随させ事業を実施することとなった。

## 齋藤孝夫氏学位授与

### 祝賀会盛大に開かれる



宮城県畜産試験場主体研究員兼畜産化学科長斉藤孝夫氏は、かねて研究を進めていた「牧草脂質の性質およびその牛乳脂質に及ぼす影響」についての論文で、東北大学より農学博士の学位が授与されましたので、宮城県畜産試験場長ほかが発起人となり去る5月14日勾当台会館蔵王の間において関係者130余名の出席により学位授与祝賀会が盛大に開催された。

今回学位授与された論文の要旨は、従来牧草脂質の分画と脂肪酸組成の究明については牧草中の蛋白質と炭水化物に比較して量的に少なく多様性であることなどからこれらの究明は非常に困難であった。

この点に着目して我国で広く栽培されているオーチャードグラス、ラジノクローバー等を素材として、クロマ

トグラフィーの分析法を利用して脂質の分画(定量)、組成(脂肪酸の種類)の究明に当たった。

この研究によれば牧草の脂質は、春と秋の刈り取り時期に高くなる傾向が認められ、再生過程や肥料要素の欠乏等も牧草の脂質生産に影響することが解明された。

また牛乳脂質は気象条件や乳期等による影響よりも給与飼料によって強く影響される、即ち、牧草、乾草、サイレージの給与は牛乳の脂質生産に大きな影響があることが確認された。

以上のように牧草脂質と栽培条件、利用過程における変化をとらえか牛乳脂質との関連を解明した画期的な論文で高く評価されている。

昭和47年家畜伝染病発生状況(1~12月)

	豚コレラ	豚丹毒	ニューカッスル病	ひた白痢	結核病	ブルセラ病	伝 伝	胸腺病	炭 疽	気腫症	プロブスマ病	
北海道	181	43	5,962	151	3		51	147		3		21
青森	154	7		44		2	5	17				1
岩手		32	876				4	23		2		
宮城		311		3	2			6				
秋田	50	66	5,269	62				12				
山形		66		10	2		3	25				
福島		66		11	1		2					
茨城	52	114	11,886		1							
栃木		282	958		9		4					
群馬		54	3,698					139	4			
埼玉	80	73		1			1	95				
千葉		238			4	3	1			39		
東京			2,668			3	3					
神奈川		262		26	5			158				
新潟		195		76	2			18				
富山		20			1			3				
石川		37			2			85				
福井		49	2,800	13								
山梨		28		13	1			356		7		
長野		14		21	5			215				
岐阜		111		1	1	2	1	21				
静岡		74		30	7	2		172				
愛知					5		1	337				
三重		106			2							
滋賀		26			1			1				
京都		5		677	3			2				
大阪					49		14	17				
兵庫		11		1	19		1	9	1			
奈良			436		3			9				
和歌山					2		4	3				
鳥取		83		33	2				1			
根拠		84			3			1				
岡山		6			2			12	5			
広島		71	2,862				6			8		
山口		22	3,377	18				9				
徳島		6	231,545	52	25			1				
香愛					1							
高知							4		2			
福岡		204		10				111				
佐賀		5	4,369		1		10	19				
長崎		204	13,190	1	1		1	11				
熊本		4		2	3		20	155				
大分			8,580	1			5	39	1			
宮崎	9	26	18,200	2			1	29				
鹿児島		202	8,500	10								
沖縄		584									7	
計	526	3,727	325,176	1,272	168	12	139	2,303	14	59	7	22



昭和48年度催しもの案内

会の名称	主催	とき	ところ	内容
畜産コンサルタント 事業指導対策連絡協 議会	畜産会	48 6 19	仙台市	参集範囲 農業改良普及所、家畜保健衛生所、関係市町村、農協
農協肉畜振興共進会	県経済連	48 8 29 30	仙台市	肉牛枝肉(黒毛和種)去 50頭 肉豚枝肉(大型種)雑種(YL, LH, LWH) 100頭 150頭
		48 9 5 6	東京都	肉牛枝肉(黒毛和種)去 30頭 (乳用雄牛)去 肉牛は10ヵ月以上、肉豚は3ヵ月以上同一人が肥育したもの。
県種豚共励会	指定協議種豚会	48 9 中旬	古家川畜市場	品種、L、H 出品頭数、60頭 区分、未經産、経産、若雄、母娘群
第3回東北六県北海道連合肉牛共進会	福商協 島協同 県家組 畜合	48 10 中旬	福島県矢畜吹市場	第1部 第1類 黒毛和種 生后30ヵ月以上～ 褐毛和種 40ヵ月未満 第2類 褐毛和種若令(生後16ヵ月以上～21ヵ月未満) 第2部 日本短角種、第3部 乳用雄(去) 出品頭数は宮城県30頭、東北五県北海道120頭、計150頭 出品牛は出品者において48年6月1日以前から飼育しているもの。
第13回仙台牛共進会	県経済連	48 10 中旬	仙台市	肉用牛(黒毛和種)去 100頭 " (褐毛和種)去 10 計150頭 " (乳用雄牛)去 40 出品牛は出品者において6ヵ月以上生体重550kg以上肥育されたもの。
全国肉牛枝肉共進会	東全協 京国 食肉 市場 用牛 会	48 10 24 1 25	東京都	第1部 和牛(黒毛和牛、あか牛)雌 55頭 30ヵ月令以上 500kg 第2部 和牛( " " )去 70頭 25 " 500kg 第3部 乳用去勢牛 40頭 15 " 530kg 出品牛は出品者において10ヵ月以上飼育されたもの

和牛登録料金の訂正について

全国和牛登録協会宮城県支部

本号の昭和48年3月20日付、第20号で登録料と会費が改正になった旨掲載しましたが、その後、変更があって下記の通り決定致しましたので訂正致します。

補助牛登記	登記料	〃	600円
	移動料	〃	200円
基本登録	登録料	〃	2,800円
	移動料	〃	500円
高等登録	登録料	〃	5,000円

- |        |       |      |      |      |
|--------|-------|------|------|------|
| 1. 登録料 | 2. 会費 | 年会費  | 1件に付 | 500円 |
| 子牛登記   | 登記料   | 1件に付 | 600円 |      |
|        | 移動料   | 〃    | 200円 |      |
|        | 3. 遅延 | 遅延料  | 1件に付 | 400円 |



新	旧	氏名
畜産会 常勤畜産コンサルタント 書記 高知県畜産会 依頼退職(48・3・31)	県立農業試験場総括研究員兼畜産部長 (新規採用) 常勤畜産コンサルタント 書記	(48・4・1付) 秋元武蔵 佐藤真紀 中村正 熊谷貴美子
宮城県農業共済連合会 迫家畜診療所 大和〃(新)	大和家畜診療所	(48・4・1付) 技師 吉田重夫 技師 千葉正寛

新	旧	氏名
県畜産課		(48・4・1付)
畜産課 技術副参事	仙台家畜保健衛生所長	石田 俊三
// 技術補佐	技術主幹兼家畜改良係長	早川 薫
// 技術主幹兼家畜改良係長	// 衛生係長	佐藤 義光
// 技術主幹兼肉畜係長	迫家畜保健衛生所防疫課長	清水 潔
// 技術主幹兼酪農係長	仙台家畜保健衛生所指導課長	阿部 章毅
// 衛生係長	畜産課 肉畜係長	亀井 康
// 草地飼料係長	古川家畜保健衛生所指導課長	古山 元彦
// 技術主査	仙台家畜保健衛生所技術主査	大場 民雄
// //	古川 // //	伊藤 隆康
農政課 //	畜産課	加藤 安良
畜産課	医務業務課	大沼 邦雄
人事課	畜産課	鳥越 文彦
畜産課兼肥飼料検査所	農業試験場	佐々木 英夫
仙台家畜保健衛生所長	畜産課 技術補佐	渡辺 正治
迫 //	畜産課技術主幹兼酪農係長	鹿又 久雄
石巻 //	// // 草地飼料係長	今野 代太郎
大河原家畜保健衛生所指導課長	畜産課 技術主査	赤井沢 義一
仙台 // //	石巻家畜保健衛生所次長	星 卓二
古川 // //	農政課 技術主査	上 泉 貞男
迫 // 防疫課長	大河原家畜保健衛生所技術主査	岡崎 稔
石巻家畜保健衛生所次長	迫家畜保健衛生所技術主査	鶴田 孝治
仙台 // 技術主査	畜産課 //	佐々木 敬功
古川 // //	石巻家畜保健衛生所	佐々木 義男
石巻 // //	種畜場	高橋 秋彦
仙台 //	古川家畜保健衛生所	高橋 勝一
古川 //	畜産課兼肥飼料検査所	佐藤 武夫
大河原 //	(新規採用)	佐々木 和夫
古川 //	( // )	伊藤 茂男
築館 //	( // )	沢 辺 ちう
石巻 //	( // )	小山田 善次郎
畜産試験場		
畜産試験場長草地飼料部長事務取扱	種畜場長	春日 博
畜産試験場家畜第一部長	農業試験場主任研究員	丹野 祐一
// 家畜第二部長	石巻家畜保健衛生所長	守屋 春男
// 総務課長	種畜場庶務課長	長谷川 政児
// 乳牛科長	農業試験場研究員	大沼 保弘
// 主任研究員兼肉牛科長	仙台家畜保健衛生所技術主査	渡辺 弘
// // 兼畜産化学科長	農業試験場主任研究員	斉藤 孝夫
// 養豚科長	種畜場種畜課長	三浦 忠止
// 養鶏科長	農業試験場研究員	伊藤 寿行
// 畜産公害科長	古川家畜保健衛生所技師	小原 昌一
// 主任研究員兼草地科長	農業試験場主任研究員	高玉 精一
// 飼料科長	種畜場飼料課長	阿部 功
// 技師	(新規採用)	松本 忠
岩出山牧場	種畜場	茄子川 重晃
白石牧場長兼事務長	大河原家畜保健衛生所指導課長	佐々木 明
肥飼料検査所長	迫家畜保健衛生所長	工藤 久雄
依頼退職(48・4・1付)	農業試験場総括研究員兼畜産部長	秋元 武蔵